

みどりの風

(URL) <http://www.ginzado.ne.jp/~k-iskwj/> (E-mail) k-iskwj@educet.plala.or.jp

親と子どものかかわり方



9月中旬となり、比較的涼しい日が続いています。蝉の声が減り、草むらの虫の音がひととき大きくなってきたように感じる、今日この頃です。

日本では、未だに「児童虐待」のニュースが後をたちません。悲しいことです。子ども虐待には4種類に分けられるようですが、その一つに「ネグレクト」というのがあります。暴力とか暴言と違って、これは意外と気付かないことなのかもしれません。ある本によれば、「ネグレクトは、保護の怠慢、養育の放棄・拒否」などと訳されています。保護者が、子どもを家に残して外出する、食事を与えない、衣服を着替えさせない、登校禁止にして家に閉じこめる、無視して子どもの情緒的な欲求に応えない、遺棄するなどを指し、育児知識が不足していてミルクの量が不適切だったり、パチンコに熱中して子どもを自動車内に放置したりするなども入ります。安全や健康への配慮が著しく欠けたために、子どもが死に至るケースもあります。病気なのに病院に連れて行かない、医療ネグレクトも存在します、と紹介されていました。

では、逆に何でも買い与える親がいいのでしょうか。自分が欲しいと言った時、親がすぐ買ってくれるという状態では、我慢する必要がないわけです。我慢する必要がなければ、我慢する力は身に付きません。つまり、欲望をコントロールする力が身に付かないということです。それに、「物」を手に入れるための苦勞をしていないので「物」のありがたみも分かりません。「物」を買うためにはお金が必要で、それを稼ぐのは本当に大変なことです、そのこともまるで分からないわけです。お金を稼ぐ大変さも分からず、「物」のありがたみも分からず、欲望をコントロールする力も身に付けないまま大人になったとしたら…。その大人はどんな行動をするのでしょうか。

視点を少し変えて…。「自分は親として、(心の部分で)子どもを信じたい」という言葉も聞きます。例えば、子ども同士でトラブルがあった時、(一方的に相手が悪い事案もありますが)その多くの場合は、どちらにも原因(やったこと)があるものです。でも、子どもは怒られたくないため、自分にとって都合のいいことだけを伝えようとします(「ぼくは何もしていないのに～」と言う)。自分の子を信じたいという気持ちはもちろん大事です。でも、もし、相手が違うことを言っているとしたらどうでしょう。自分の子にも非があったのかもしれませんが。その時に、「正直に話してごらん」「そっか、良く正直に話してくれたね。一緒に謝りにいこう」「これからどうしていけばいいのか考えようね」などと、抱きしめたり伝えるたりする…。こういう言動が、親の愛情(の姿)なのだと思います。

子どもの気持ちを代弁するとしたら

AさんとBさんの間に学校でトラブルがあったとします。両方に原因があった(お互いに嫌なことを言った)にもかかわらず、Aさんは家で、自分がやられたことだけを親に言ったとします。親は当然憤慨します。

子どもの気持ちを代弁してみます。「学校で言うと、事実の聞き取りで遊ぶ時間がなくなるんだよ」「先生に言うと自分の非も認めないとだから嫌なんだよ」「周りの友達が見ていて、事実が分かると自分だけが被害者にならないから困るな」「悪い人をつくると自分が親に怒られなくて済むよ」「相手が悪いと親が味方してくれたら、その日は良く話を聞いてくれて、自分に『勉強しろとかゲームをやめなさい』って言わなくなるんだ」…。

親に全幅の信頼があり、子どもと職員との関係が十分でないために、家の人に言うのかもしれませんが。そうだとしたら、本当に申し訳なく思います。けれども、事実の確認が遅れる(時間が経つ)ほど、その解決が難しくなります。

学校で何か嫌なことをされた、困ったこと・トラブルがあったら、すぐに、「担任」「他の職員」「話せる友達」に伝えるように、お子さんにくり返し指導・声掛けください。学校・職員は、その子たちを必ず守ります。